



～品川史跡めぐり～



武蔵小山商店街

関東大震災以前、この付近は野菜畑の広がる純農村地域でした。しかし大正10年頃から宅地化の波が押し寄せ、急速に住宅地となりました。そのため各種の商店ができ始め、商店街を形成しました。その後戦後復興を経て、昭和31年(1956)には全長470mの第1アーケードが完成しました。わが国最初のアーケード街です。

～地名の由来～



その名の由来をひもとけば、街は古の姿を現し
私たちは積み重ねた時の落葉の上になつことを知る

—シリーズで区内の地名を厳選して紹介します—

品川(しながわ)

目黒川の河口を中心に発達した集落につけられた名前で元暦元年(1184)の田代文書に初めて登場しました。

語源については、目黒川の古名が品川と呼ばれていたとする説と、上無川(神奈川の語源)に対して下無川が略されて品川になったとする説など、諸説があります。

御殿山(ごてんやま)

北品川宿の西方にある台地で、徳川將軍の御殿があったことなどからその名がついたといわれています。江戸時代には桜の名所として江戸庶民の遊山で賑わいました。